

## 第26回淡路市子ども・子育て会議 会議録

開催日：令和5年10月26日（木）13：30～15：00

開催場所：津名ふれあいセンター2階 会議室1～4

出席委員：16人 欠席委員：2人

傍聴人：2人

### 1 開会あいさつ 健康福祉部子育て支援担当部長 鯛

### 2 委嘱状の交付

自己紹介 各委員とオブザーバー、事務局

### 3 会長・副会長の選出

伊木会長、三浦副会長を選出

### 4 報告事項

#### 公募委員並びに事業所枠委員改選について

公募により4人の委員を選出、事業所枠から商工会女性部長に委嘱

#### 子ども・子育て支援事業計画令和4年度実績報告について

##### ① 教育・保育事業、その他

市内各保育所(園)、認定こども園、事業所内保育、企業主導型保育事業について、計画値に対する令和4年度の実入所数の報告。

##### ② 地域子ども・子育て支援事業

各事業について、計画値に対する実績数の報告及び計画値との乖離理由の見解について報告。

### <委員からの意見>

#### ○委員

病後児保育の実績3人は同じ人が利用しているのか。

#### ●事務局

異なる方が利用している。

#### ○委員

使い勝手が良いとかの意見はどうか。制度の認知度を高めていきたいので、利用者アンケートなどを取ってより良いものにできれば。

●事務局

利用後のアンケート等は実施していない。利用にあたってご意見があったこともうかがっている。受け入れる施設が、突然の利用であっても対応可能であれば受け入れできるが、現状、急な受け入れは難しいことが課題である。

○委員

存在を知られていない、ということもあるのでは。

●事務局

周知の方法としては、施設から保育所や子育て学習センターにお便りを出していることを聞いている。また、市のHPや子育てハンドブックに掲載を行っている。

○委員

口頭での周知を行ってはどうか。

●事務局

今後の周知の方法については、施設と協議していきたい。

○委員

病後児保育を利用している保護者の中にも、使い慣れている保護者もいる。コロナ等関係なく、仕事に行きたい等の理由で預けようと思ったが施設側の人員不足で半日しか預かってもらえなかった際、利用料について相談があった。1回いくらではなく半日だから半額になると思っていたようだ。

○会長

保護者代表の委員の皆さんのご意見は。

○委員

制度を知らない方が多いと思う。どういう場所で、どの程度で預けられるのかなど、これくらいのことで預けてもいいのかな、とかあると思う。事例をたくさん提示してもらえると良いのでは。情報の周知が足りないように思う。

○委員

病後児保育のお知らせを、子どもが保育園からもらって帰ってきたことがあるので、制度は知っていた。よく読めば、ためになることも書いてあるが全てを見ることはで

きていない。病後児がどこから病後児なのか、どこから預けられるのか、線引きが難しいところもあるのでは。

○委員

昨日子どもが熱を出し、まさに今このような状態。自分は義母に預かってもらうことができた。淡路市内の方は祖父母に預かってもらえ、子どもが安心できる場所があるので病後児に行かない理由の一つでは。

ただ、祖父母も介護等でいつでも預かってもらえるものでもないので、病後児保育があると助かる保護者も多いと思う。子どもがしんどい状態で、どんな環境で、どう過ごしているのかが分かれば安心して預けられるのではと思う。

○会長

ほかにご意見は。

○委員

小児科で病後児保育の情報を伝えたり、資料を置いたりしてはどうか。

○委員

病院では現状置いていない。

○委員

調子が悪くなってまず向かうのは小児科で、その後のことなので小児科でお知らせしてもらえたら、分かりやすいのでは。

○会長

病児と病後児のくくりが異なるところが難しい。

○委員

インフルエンザを想像してもらったら分かりやすい。熱は下がっているが、登園・登校してはいけない状態。

●事務局

病児と病後児の違いが保護者にとってわかりづらいのかと思う。病後児は何らかの感染症で発熱等の状態が終わり、回復期に入っているが登園・登校できない期間に利用できるのが病後児保育となる。小学校6年生まで利用できる制度で、利用するにはか

かりつけ医の指示書を出してもらい、施設へ提出となるので、急に利用というのは難しい面があるため利用しづらいというご意見もいただいている。病後児保育でお預かりしていても、途中で発熱等となった場合は保護者に連絡を取るなど、施設に常駐する看護師が対応を行うこととなる。

#### ○会長

保護者代表の委員からも提案があったように、事例や利用者の意見を聞く、また、今後医師会との連携も考えていければと思う。

#### ●事務局

施設に事前に問い合わせがあった場合も、相談を受けている。利用が可能かどうかは、子育て応援課または聖隷に問い合わせをお願いしたい。また利用実績が伸びていない理由として、新型コロナウイルス感染症予防により、子どもが体調を崩したとき保護者が仕事を休める環境が整ってきたことも要因の一つと捉えている。

#### ○会長

課題等が見えてきたのではと思う。相談窓口の一本化やDXを利用できればと思う。

#### 公立保育所（釜口・多賀）の休園について

釜口及び多賀保育所を今年度末をもって休園する旨を報告。

#### <委員からの意見>

#### ○委員

子どもが減って保育園に預ける人が減り、閉園という状況は分かるが、一方で一時預かり保育で2歳児以下の子どもを1週間に1度程度預けている保護者もいると聞く。育児疲れなどで定期的に預かってほしいが、千鳥会のぬくもりなどを利用したいが利用希望者が多くなかなか預けることができない状態のようだ。

未満時の保育の確保など、どう考えていけばいいのか。さくら助産院でも多くの保護者が一時預かりを利用していると聞く。

2園が休園になると、ますます預けられるところがなくなってしまうのではないかと  
思う。

#### ●事務局

保育施設があるから未満児が預けられる、というのではなく保育士の確保が大きな課題となっている。保育所があっても保育士がいなければ定員よりも少ない人数を預か

らざるを得ない。保育士がいなければ、途中入園もできない状況となっている。休園する2園は極端に入園児が減り、同学年での保育が不可能となっている。異年齢間保育も必要だが、同学年との学びや経験がなくなってしまう。

市としても環境改善の必要性を考えたい。休園としている。

また、2園を休園することにより、未満児の受け入れができなくなるのではなく、保育士が、市内の別の保育所に異動することで保育士数が増え、施設の面積に余裕があれば受け入れられる未満児の数も増えることになる。

途中入所や、一時預かりは現状として希望通りは難しいが、通常入所の子どもを優先して受け入れていきたい。保育士の確保は市としても一番大きな課題と考えており、確保策を今後も検討していきたい。

#### ○委員

例えば多賀の未満児の受け入れで、他の園の定員は増えるのか。

#### ●事務局

入所の受付は来月からということと、職員確保もこれからとなるが、現状の人数であれば、休園に伴う職員異動で受け入れは可能と考えている。

#### ○委員

定員が変わるのではなく、実際受け入れる子どもが増えるということで良いか。

#### ●事務局

お見込みのとおり。現状も定員よりも少ない人数での受け入れとなっているので、途中入所や一時預かりが難しい状況となっている。

#### ○委員

例えば定員は20人だが、保育士不足のため18人しか受け入れできないところ、保育士が増えたら預かれる子どもが増やせるという説明だったかと思う。保育士の確保が本当に大変なのはよくわかる。

その中で、釜口・多賀に今入所している子どもはそれぞれ東浦や一宮の保育所に入所できるということで良いか。

#### ●事務局

入所する施設をこちらから指定するのではなく、保護者には希望する保育施設で入所申請をしてもらうことにしている。

## ○委員

保育所は地域性が非常に大切だと思う。釜口なら仮屋保育所が一番近いと思うが、仮屋も人数が多い保育所だが入所は可能なのか。また、通園距離などの負担も考えられるが保護者から意見はなかったのか。

## ●事務局

説明会をそれぞれ実施した際に、希望する園への入所が可能であると説明している。過去には、入所人数が多く利用調整を行い、希望する園に入園できないこともあったが近年は解消されている。釜口の園児が全員、仮屋保育所を希望しても入所可能であり、多賀についても同様ということの説明している。

## ○会長

小規模園の良さもあるが、市としては同年齢保育の環境を重視との立場で休園との決断と思う。保育士不足の面で何かご意見は。

## ○委員

確保についていろんな議論がされていると思うが、悩ましいところではないか。

## ○会長

具体的な方針はあるのか。

## ●事務局

現状のところはない。

## ○委員

保育士確保が重要課題ということは全員認識している。潜在保育士の掘り起こし策にも期待したい。免許を持っている者が研修を受け、復帰しやすい環境づくりに努めているが復帰に結び付いていないのが現状。

## ●事務局

保育士免許を持つ人数は変わらないが、実際保育士になる人が減っている。保育士という職業のイメージも影響ある可能性も。また、実際働く場合も、居住地は市内または島内が大半というのが現状である。イメージアップも必要ではと考えている。

## ○委員

保育士を市域間、保育所間で取り合いとなっている状況だ。他市との競合で淡路市は後れをとっていると思う。費用の投入を南あわじ市は思い切ってやっている。淡路市も頑張ってもらいたい。

## ○会長

皆さんのお知り合いで保育士免許を持っている方へ、ぜひお声がけをお願いしたい。

## ○委員

保育士だけでなく教員も不足している。要因は対人間関係と聞く。業務改善や給与面の改善も行っているが、職種に対して魅力を感じられる具体策がなかなか思いつかない。

## ●事務局

さまざま提案いただいているが、財政面等で実施できていないことを申し訳なく思う。現実として、保育所は朝7時から夜7時まで開所している。朝7時に子どもを預かるには、それより早く出勤していなければならない、夜7時まで預かると、勤務時間は当然7時以降になる。朝9時から夕方4時までの保育であれば現状の保育士数で賄えるかもしれないが、現状はそうではない。保育士自身の生活維持も大変な状況である。通常時間以外の勤務が可能な人員確保も個別にお願いするなどの方法しかない状況である。

## ○委員

預ける側は朝早くから夜遅くまで預かってほしい。預かる方としては保育士が少なくなる原因なのかと思う。

## ●事務局

保育士の生活や家庭を持っている場合はサポートする体制も必要と思う。

### 子ども・子育て支援事業計画（第3期）の計画策定について

令和5年度中にニーズ調査を実施し、令和6年度に計画策定となる旨を説明。

## 5 その他

### 2023年版子育てハンドブック発行について

## ●事務局

今回のハンドブック作成にあたり、裏表紙に相談早見表を掲載、公園等の施設情報を更新し、ベビーシートの有無を記載した。今後もわかりやすく、使いやすい子育て関連情報発信を模索していきたい。

#### ○委員

ハンドブック作成にあたっては、子育て会議の実績でもある。皆さんの意見により、良くなっている。さらにより良いものにしていきたいと思うので、様々な立場からのご意見をいただきたい。

#### ○委員

毎年見ているが年々よくなっていると思う。島外から来られた方は淡路のことが分からないことが多いので、子育ての情報源としてよくなっていると思う。

#### ○委員

キッズスペースのあるカフェやクーポンがついていると良い。手に取るきっかけが何かあるといいと思う。

#### ○委員

民間の施設も掲載したら身近に感じられるのでは。

#### ○会長

学生にもアンケートをとった。若い世代からの様々な意見が出ているので、参考にしてほしい。

#### ○委員

キッズスペースの話が出たので、洲本や南あわじには民間商業施設の中にキッズスペースがある。淡路市にもそういう施設があったらいいと思う。市内の商業施設の中に空きスペースがあるのでそういうところを活用できないか。小さい子どもが遊べるスペースが欲しいという要望を保護者から聞く。

#### ●事務局

以前より要望があることは認識しているが、市において設置することは現在予定していない。民間事業者においても、かつては設置していたが現在は撤去している。

費用面や安全面を検討した結果、現在も設置していないものとする。

今後も、関係団体に情報提供等を行い、設置を検討していただけるよう周知に努めたい。

○委員

子育てハンドブックの大きさは、持ち運びが便利な大きさになっていると思うが、家において置く場合はもう少し大きいサイズでも良いのでは。

○委員

最近の保護者は、スマートフォンで見るが多くなっているので、大きさについては問題ないと思う。

**令和5年度第2回淡路市子ども・子育て会議（第27回）について**

次回第27回子ども・子育て会議の開催については、12月ごろ開催予定。

**6 閉会あいさつ 三浦副会長**

以 上